



# 板厚より小径をプレス

## 奥谷金網 打抜金網に新技術

【神戸】奥谷金網製作所（神戸市中央区、奥谷勝彦社長、078・351・2531）は、フィルターやストレーナーなどパンチングメタル（打抜金網）製品の耐久性を向上させるプレス加工技術を開発した。製品の交

換寿命が長くなり、顧客はコスト削減できる。月内に新技術による製品の受注を開始。これにより2010年5月期にパンチングメタル製品の売上高は前年度比10%増の4億4000万円を目指す。

石油化学プラントや原子力プラント、航空機向けなど、高耐久性や高耐圧性が求められる特殊用途での需要を見込む。同社は鋼板などにプレスの金型で穴あけを行うパンチングメタルの中で、特に板厚1<sup>ミ</sup>リ6<sup>ミ</sup>リ程度程度の製品が主力。

パンチングプレスは金型の強度などの問題で、板厚より小さい直径の穴をあけることは困難とされてきた。1年前から金型の設計変更や焼き入れ方法見直しによる強度向上など改良を重ね、厚さ3<sup>ミ</sup>リの板に直径2<sup>ミ</sup>リの穴あけといった小径プレスを可能とした。

板厚は耐久性や耐圧性、寿命に比例するため、顧客が要望する穴径を維持しながら、十分な板厚を確保して製品の長寿命化が期待できる。価格は未公表だが既存のパunchingメタルに比べて高く設定する。6月中旬に「スーパーパンチング」（登録商標申請中）という名称で受注を開始。同業他社へのOEM（相手先ブランド）供給も手がけるほか、ウェブ上での受注も検討する。